

古代の山城

天皇陵クラスの巨大古墳・造山古墳や古備国府跡などがちらほら古備風土記の丘(岡山県総社市)。その北側にそびえるのが、鬼城山だ。標高400メートル。晴天の日には水島湾まで望める。

ここで古代の山城「鬼ノ城」跡が発見されたのは、昭和45年。地元の高橋護さん(ノートルダム清心女子大学)が、鬼城山頂をハチマキ状にとりまく列石や水門の跡に気づき、「幻の山城」が浮かびあがった。

平成5年から史跡整備のため調査を進めた結果、一昨年にも、第1城門を発見。こんどは正門跡(間口4・1メートル、約40メートル)と、約40メートルの推定第三城門跡から、石組みのテラス状張り出しと石段、6本の柱跡が見つかった。

古代の山城は、対馬の金田城から大宰府背後の大野城、熊本の大野城、瀬戸内まで、高松の扇島城を経て、大

編集委員・岡本健一

来日、やはり年包圍網ではないか。——こ

阪一奈良間の高安城まで、19城あった。記録にない無名の山城を含めると、西日本全体で20万所見つかっている。鬼ノ城も無名の山城群の一つ。

出宮徳尚さん(岡山市教委)の論文「瀬戸内の古代山城」(『古代の日本』)によると、山城は2類に分けられる。一つは日本が663年、白村江の海戦(百濟救援戦)で敗れたあ

とに造った、本防衛のための城(朝鮮式山城)。山頂に石壁・土塁をめぐらした城で、百

戦で敗れたあ

とに造った、本防衛のための城(朝鮮式山城)。山頂に石壁・土塁をめぐらした城で、百

戦で敗れたあ

とに造った、本防衛のための城(朝鮮式山城)。山頂に石壁・土塁をめぐらした城で、百

戦で敗れたあ

とに造った、本防衛のための城(朝鮮式山城)。山頂に石壁・土塁をめぐらした城で、百

戦で敗れたあ

本土防衛線か、唐の包圍網か



発掘された鬼ノ城の「正門」跡

戦で敗れたあ

戦で敗れたあ

末まで滞在し、正使は飛鳥の朝廷に入った。さらに2年後、遣唐使を軍船で筑紫に送り届けてきた。出宮さんの指摘どおり、これは在韓唐軍の強烈な軍事的プレゼンスだ。実質的意識がつのったのだろう。朝廷は665年、大野城と長門城などを、667年には高安城と扇島城、金田城を築いた。しかもこの年、天智天皇は飛鳥から近江へと遷都。

緊迫した国際情勢と築城の時期・位置からみて、各地の山城は、白村江敗戦の本防衛のために急造されたトリテ、とみられてきた。しかし、幹線が離れた山地に、龍城用やケリヲ戦用のトリテを造ったところまで、ただ効果があったか、正面作戦で幹線を突破されたか、ひとたまた最後の防衛線・高安城でさえ壬申の乱(672年)で簡単に落城したのだから。考古学者の田辺昭三さん(京都造形芸術大学)は、いち早く通説に疑問をいだいた一人。高安城だけでは大和の防衛線は手薄だし、このほかに未発見の幻の山城があるにしても、「防衛上の要地を占めていなければ、無用の長物」だ。

山城は日本本土の防衛線ではなく、実は、唐・新羅が日本支配のために築いた

包圍網ではないか。——こ

包圍網ではないか。——こ

包圍網ではないか。——こ

包圍網ではないか。——こ

包圍網ではないか。——こ

包圍網ではないか。——こ

包圍網ではないか。——こ

包圍網ではないか。——こ